



にじたま! Vol.30

2020年 春号

多様な性のあり方と、幸せと人生と笑いを考える、にじいるたまご通信!



2019年度 スクランブルエッグ活動報告!!

▶7/6 IDAHO メッセージ展&『カラコエの花』鑑賞ツアー



7/6 青森国際ナショナル LGBT フィルムフェスティバルと同日には、毎年恒例、9回目となる『多様な性にYES! IDAHO メッセージ展』と、今大注目の映画『カラコエの花』を映画祭で鑑賞するツアーを行いました。

例年通り、映画祭にきていただいた多くの皆様にメッセージ展をご覧いただくことができました。また映画『カラコエの花』は特におすすめできる映画でした!! 非当事者の監督の眼差しで描かれた物語ですが、だからこそ、ヒリヒリするようなリアルが写っているように感じました。なんとも言えない終わり方、エンドロールに涙した人も多いに違いありません。もしまだチェックしていないという方がいらっしゃいましたら、ぜひご覧ください! (文=ヒロ)

▶11/9 アピオあおもり秋まつり

11/9 アピオあおもり秋まつりでは多様性をテーマに、『みんな違ってみんないい! 2019』と題して、他の2団体と共同出展。フリースクールの運営をしているあおもりサニーヒルさんと、ヒューマンライブラリーなどの活動を展開する Jinzai-Japan さんと同じお部屋で、来場者の方に対してそれぞれの活動紹介を行いました。

共同出展は初の試みでしたが、互いの活動をよく知ることができ、展示室の雰囲気もより良いものになったと感じました。スクランブルエッグとしては、ご来場いただいた方とゆっくりお話ができ、有意義な時間となりました。

また、初めてたまごのロゴ入りオリジナルトートバックも販売しました。今後ご覧になった方はぜひご購入くださいませ~!

(文=ヒロ)



ぽいぽい ピープル

同性カップルには、男役と女役がいる...そういった先入観を持っている人が、実は少なくないのではないかと感じることがあります。

当事者である私も、まだ性的マイノリティの人たちと知り合い始めたばかりの頃には、そう思い込んでいたこともありました。異性愛前提の社会で育ったために、同性カップルを異性カップルに当てはめてイメージしてしまっていたのかもしれない。

そういうケースももちろんありますが、たとえば、フェミニンな女性が好きで自分も女性的というレズビアンの人がいれば、お互いに男性的なゲイカップルもいます。異性愛でも同性愛でも、どんな人に惹かれるかは人それぞれ。カップルのあり方もまた、それぞれなのですよ。(文=創)

どっちが男役？



▶講師・スピーカーの派遣を行いました

2019年度は、5月に青森県人権擁護委員連合会さんの研修にて、県内各地から参加された人権擁護委員のみなさまにお話しさせていただいたのを皮切りに、青森県や岩手県で、教育関係の勉強会や中学校での講座にもお伺いしました。どの会場でもみなさん真剣に話を聞いてくださり、グループワークなどでも活発に質問や意見交換をされていました。

またヒューマンライブラリー（人が「本」になって、「読者」に体験をお話するイベント）にもお声がけをいただいて、「本（語り手）」として複数回参加をさせていただきました。

現在講演を担当しているメンバー2名は、青森や東北の地で生まれ育ち、暮らしている一当事者です。講演のプロではありませんが、私たちがお話しさせていただくことで、少しでも何かお伝えできることがあればと思っています。

(文=創)



2019年度青森県人権擁護委員連合会での研修会の様子

【お知らせ】新型コロナウイルス感染症拡大防止のための対応

スクランブルエッグでは、新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて、講師派遣や取材、研究協力等については、当面の間対面を避け、オンライン形式でのみお引き受けする対応をとらせていただくことになりました。

今年度はイベントも、人が集まる場に行く・お越しいただくという方法をとらず、インターネットを使用したもので実施できるよう検討中です。イベント情報はTwitter等で随時お知らせしていきますので、この機会には是非フォローをお願いいたします。Twitter アカウント：@gochamazetamago

コミュニティは
Community



インフィニティ Infinity
無限大!?

突然ですが、自分は従業員が比較的多い会社に勤めている、いわゆる社畜です。そこで、最近「流行り」の「働き方改革」に「ダイバーシティ推進」が相まって、あるアンケートがいきなりトイレの個室の壁に出現しました。
(文・写真：walker)

「あなたが会社に欲しいのはどんなトイレ？」

多様性が叫ばれるこのご時世に、多目的トイレも満足にない会社なので、自由記述・無記名・誰でも閲覧可能なこのアンケートは掲示された2週間、絶え間なく異論反論オブジェクションがやりとりされていました。トイレに入るのがこんなに楽しみだったのは人生で初めてでした。

なぜなら、いままで会社という閉塞感に満ちたコミュニティの中に、実はさまざまな人種が存在していたことを知ることができたからです。健常者に障害者、既婚者に独身、老いも若きも、そしてさまざまなセクシュアリティ・・・特に性自認について物心ついた時から悩んできた自分にとっては、まさか同じ会社に、同じフロアに、こんなにたくさんの考えやセクシュアリティを持つ人がいたなんて！！と驚きつつも、居心地のよさを感じました。



↑ストレス解消方法①
太陽の下、野球観戦



↑ストレス解消方法②
フリースタイルバトル
進化する可能性広がる音楽遊ぼうぜ！



↑マイブーム

さて、トイレの話ばかりしてきましたが、自分自身のことを少しお話します。

私は生まれてこの方、みんなが言う「恋愛」感情を持ったことがありません。好きな人、愛しているといえる人はたくさんいます。でもそれは家族を愛している、気の合う友だち、それ以上の「好意」は自分には存在しません。

いまはクエスチョンであるとかアセクシャルであるとか何とか説明できるかな、という感じですが、それはもうめちゃくちゃ悩んできました。家族・学校・会社・・・生きる上で必ず属さなければいけないコミュニティでのいちばんのコミュニケーション「恋愛話」が出来ない、共感すらできない、その疎外感。修学旅行の夜にみんなが盛り上がる中、楽しい振りをしてひとり（他にもいたかもしれませんが）、自分はいったい何者で何のために生まれてきたんだ！と自問自答する悲しさ。「正しい」回答を考えて用意するツラさ。他人と比べることは出来ませんが、思い出してみると、セクシャルマイノリティーとしての悩みを一端に抱えて生きてきました。



18歳で地元を飛び出してからは、自分が自分でいられる「居場所」探しの旅に出ることにしました。学校、バイト先、会社、居住地・・・所属するコミュニティが変わるごとに欲する「居場所」も変わります。例えば「たまご（スクランブルエッグ）」は、仕事で青森に赴任して人間関係にどうしてもなく疲れた自分を受け入れてくれた存在です。いまは東京にいますが、人生最大級の嵐を支えてくれた「たまご」には風待ち港のような安心感を勝手に抱いています。

トイレの話に戻すと、一瞬ではありましたが、トイレは会社という砂漠に出現したオアシスでした。平穩無事な生活と引き換えに分厚い仮面をつけて過ごしている自分にとって、素でいられる居場所になったのです。トイレのドアはどこでもドアでした。考え方を換えれば、どんなコミュニティにも居場所はある、そこは広い世界に繋がっているのではないだろうか・・・。生きる上で困難に直面すると自分探しの大冒険に出がちですが、最近は日帰り旅行、いや散歩くらいの距離でも意外と心地よい居場所が見つかるかも！？という小さな発見の話でした。

生きづらい日々の中で小さな発見を重ねて、最期には素晴らしい人生行路だったな、と思える旅を続けていきたいと思います。生き方もセクシュアリティもひとそれぞれ、自分が自分でいられる場所もひとそれぞれ。要するに、みんな違って、みんないい。みなさん、よい旅を！！



機関紙『にじたま』 vol.30 発行にあたって

2009年から発行を始めた『にじたま』は、今号で30号となりました。

スクランブルエッグは、同じ地域の中でセクマイも変わらず一緒に暮らしていることを伝えるために、ローカルにこだわって活動を始めた



ので、地元で暮らすクローゼット（周囲にセクシュアリティを明かしていない当事者）でも安心して語れる場を必要としていました。顔や名前を出さなくても、自身の体験や感じたことを書くことができる機関紙は、そういった背景からスタートした取り組みです。

これまで『にじたま』は、各地で手に取れることや、他のチラシや情報誌と同じように並ぶことの意義を考え、紙媒体にこだわり発行を続けてきました。しかしマンパワー不足により、年々編集や印刷の作業も難しくなり、オンライン配信への切り替えも検討していました。

そんな折、新型コロナウイルスの影響で、メンバーで集まって紙での発行作業をすることを断念。急遽、今号からオンラインで配信することになりました。

発刊当初とは時代が変わりつつある今、『にじたま』も少し変化しますが、これからも無理のない形で発行していけたらと思います。今後の配信については、Twitter等でお知らせしていきます。
(にじたま編集部)